第 28 週 金の燭台の内在的な意義、主観的な経験、有機的な維持は、 新しい復興のためである

鳥瞰	わたしたちは新しい復興の中へと入るために、神聖な 啓示の最高峰にしたがって卓越したキリストを見て、 神・人の生活のためにすべてを含むキリストを認識し、計り知れない豊富なキリストを他の人たちに供給して彼らを牧養し、キリストのからだを建造して、神の都、すなわち小羊の花嫁を究極的に完成する必要があります。わたしたちは、金の燭台の内在的な意義（神聖な啓示の最高峰）を理解するために知恵と啓示の霊を必要とします。わたしたちは金の燭台の詳細の面（神・人の生活）を主観的に経験する必要があります。それによってわたしたちは燭台の複製、すなわち三一の神の表現となることができます。金の燭台を有機的に維持することは、キリストの天の務めであって、彼の人性において諸召会をはぐくみ、また彼の神性において諸召会を養って、彼の有機的な 牧養を通して勝利者を生み出すことです	
	真理要点	経験適用
1日	1. 聖書の中で金の燭台が言われているのにはどのような意義がありますか？ 2. 燭台はどのように三一の神を表徴しますか？	1.金の燭台は……第一に出エジプト記第 25 章で述べられています。 そこで、それは幕屋の中で神のための証しとして立っていました。 ゼカリヤ書第 4 章は第二の記述です。そこで燭台は真のイスラエル 人を表し、彼らも神の証しでした。 2. 予表で金は神聖な命を表します。 金のように、神の性質は、変わったり朽ちたりすることはありません。この金の形は燭台であり、神のかたちを象徴します。キリストは「神のかたち」と呼ばれています。彼は「見えない神のかたち」です。七つのともし火は、神の七つの霊です。これらのともし火は神の表現、あるいは現れです。
2日	1.召会がキリストの正確な複製であることを説明して下さい。 2.主の回復において、わたしたちが必ず見なければならない召会が至るべき状況とは？	1. キリストは唯一の燭台でした。そしてすべての召会は、性質、本質、原型、形状、機 能において同じ燭台です。出エジプト記の燭台によれば、召会はキ リストの複製であると言うことができ、ゼカリヤ書の燭台によれ ば、召会はその霊の複写であると言うことができます。 2. 召会とは何でしょうか？ 召会とは燭台です。主の回復の中で、召会がキリストとその霊であることを見る必要があります。なぜなら、キリストとその霊はいずれも燭台であり、召会もまた燭台であるからです。これが再生と造り変えの絵です。キリストは、わたしたちの存在の中へと再生されました。そしてわたしたちは、彼（のであるもの）へと完全に造り変えられつつあります。
3日	1.どのように召会の四方面；要素、形、表現と繁殖を経験しますか？ ２.燭台を作り出すのには多くの金が必要であることを説明して下さい。	1.第一に、わたしたちは燭台の本質、すなわち金の要素にあずからなければなりません。第二に、この金の物質が燭台の形に形成されることを経験しなければなりません。燭台の金は一つのかたまりではなく、台に形づくられます。第三に、形と共に、わたしたちは七つのともし火の輝きを通して燭台の表現を経験しなければなりません。第四に、その燭台の複製の事柄があります。 ２.もしわたしたちに一オンスの金しかないなら、どのようにして燭台を形づくることができるでしょうか？これは不可能でしょう。燭台を持つためには、一タラントの金がなければなりません。わたしたちはさらに多くの金、さらに多く神のものを必要とします。燭台としての召会を持ちたいなら、実質的なもの、金（神ご自身の実質、本質、要素）を持たなければなりません。
4日	1.燭台は成長する木であることを説明してください。 2.燭台が成長するものであることを説明してくだい。	1.木として、燭台にはある際立った特徴があります。金は神の性質を表徴します。金の燭台は三一の神の表現です。三一の神は生ける木であり、生長し、芽を出し、開花しつつあります。この金の木には多くのアーモンドの花があります。予表では、アーモンドは復活の命を表徴します。復活は、死に打ち勝ち、死によって損なわれたり傷つけられたりすることのない命です。 2. 燭台は生長するものです。それぞれの対の枝の下の萼は、命の成長を示します。……こうして、燭台について、わたしたちは光の輝きの下で生み出される命の枝出しを見ます。命は光を成長させ、また光を開花させます。これは、光が実は命の開花であることを意味します。わたしたちが成長し開花するとき、光は輝きます。
5日	1.芯切りばさみと芯取り皿の機能はないですか？ 2.わたしたちは、どのように栄光から栄光へ、主の形へと造り変えられて行きますか？	1.焦げた芯を切り取るための芯切りばさみと芯取り皿が表徴するのは、古く焦げた天然の命を対処して、復活の命の輝きを明るく、純粋にすることです。芯切りばさみとは、物や事柄だけでなく、芯を切ることとかかわりのある人も含みます。わたしたちの焦げた天然の命は芯が切られ、復活の命の輝きがわたしたちの中で明るく純粋になる必要があります。 2. その答えはその霊にあります。燭台としての召会は七つのともし火を持っており、それは神の七つの霊です。神は霊です。箴言第 20 章 27 節で、「人の霊はエホバのともし火であり」と告げられています。わたしたちの内側には二つのともし火、すなわち、神の霊とわたしたちの人の霊があります。内側でわたしたちの小さなともし火は、さらに強いともし火です。わたしたちの霊が再生されるのは簡単です。しかしながら、魂の中で造り変えられることは容易ではありません。主のともし火がすべての内なる部屋を探る必要があります。
6日	1.腰の帯と、胸の帯との違いを述べてください。 2.今日、キリストは人性の中で人の子としてどのように召会を顧みておられますか？	1.旧約の祭司は、彼らの務めのために腰に帯をしていました。腰に帯をするとは、働きのために強められることです。キリストは諸召会を生み出すことで、神聖な働きを終えられました。今や彼は愛によって、生み出した召会を顧みておられます。こういうわけで、彼は胸に帯を締めておられるのです。今日キリストは、愛を表徴する胸に帯を締めて、諸召会を顧みておられます。 2.大祭司としてのキリストは、まず彼の人性において諸召会を顧み、召会をはぐくみ、召会を幸いにし、喜ばせ、心地よくします。主はこれを、燭台のともし火を整えることによって行なわれます。キリストは灯芯が燃え、焦げて黒くなった部分―わたしたちの肉、天然の人、自己、旧創造を切り取って、ともし火がさらに輝くようにされます。
まとめ	神・人の生活のために、わたしたちは金の燭台の詳細の面を主観的に経験する必要があります。それには、わたしたちは代価を払ってさらに多くの金―神の神聖な性質を得る必要があります。金の燭台は打ち物作りであり、それはキリストの苦難にあずかり、キリストのからだを建造することを表徴します。燭台が盃と、萼と、つぼみとを持っていることは、わたしたちが復活の命の中で成長し、開花し、光輝き、そして実を結ぶことを言っています。純金の芯切りばさみと芯取り皿で焦げた灯心－天然の人性を切り取ります。燭台とそのすべての器具は純金一タラント（約 100 ポ ンド）でした。これが表徴するのは、復活の中で神聖 な光を輝かせる神聖な燭台としてのキリストが、十分で完全な分量であるということです。小羊の七つの目は、法理的な贖い主としてのキリストをわたしたちに注入します。石の七つの目は、有機的な救い主としてのキリストをわたしたちに注入します。	